

特殊詐欺対策ニュース

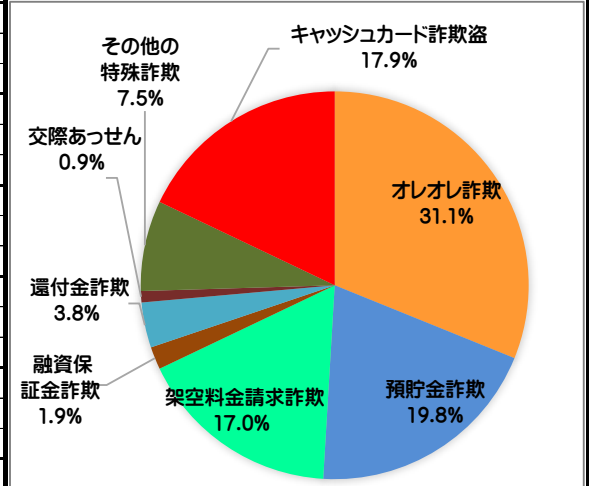
令和 8 年 4 月
警察本部生活安全企画課

特殊詐欺認知状況（令和8年3月末） ※暫定値

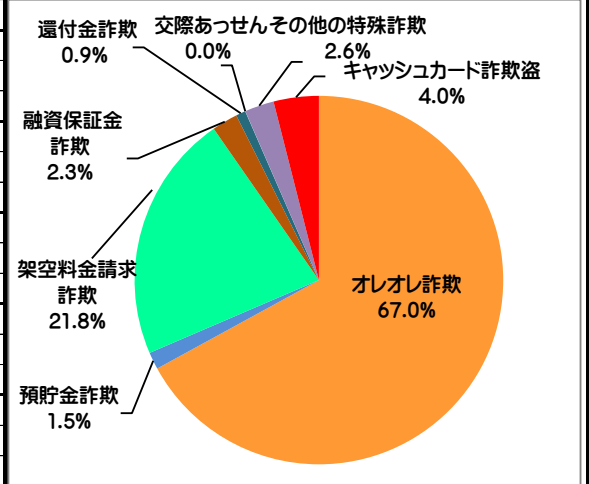
1 特殊詐欺の認知件数・被害額の状況

		認知件数	被害額
特殊詐欺合計	R8	106	628,318,627
	R7	120	233,411,452
	増減数	-14	394,907,175
オレオレ詐欺	R8	33	421,165,210
	R7	30	139,954,262
	増減数	3	281,210,948
預貯金詐欺	R8	21	9,454,000
	R7	29	27,269,000
	増減数	-8	-17,815,000
架空料金請求詐欺	R8	18	136,967,138
	R7	44	48,687,226
	増減数	-26	88,279,912
融資保証金詐欺	R8	2	14,220,953
	R7	5	810,236
	増減数	-3	13,410,717
還付金詐欺	R8	4	5,347,818
	R7	4	4,572,228
	増減数	0	775,590
金融商品詐欺	R8	0	0
	R7	0	0
	増減数	0	0
ギャンブル詐欺	R8	0	0
	R7	0	0
	増減数	0	0
交際あっせん詐欺	R8	1	92,000
	R7	0	0
	増減数	1	92,000
その他の特殊詐欺	R8	8	16,182,508
	R7	5	6,119,500
	増減数	3	10,063,008
キャッシュカード詐欺盗	R8	19	24,889,000
	R7	3	5,999,000
	増減数	16	18,890,000

【認知件数の比率】



【被害額の比率】



2 3月中に認知した主な事件

(1) ニセ警察詐欺による高額被害

本年2月、被害者（北広島市内居住、50歳代男性）のスマートフォンに法務サイバーセキュリティ対策局を名のる男から「あなたの名義で携帯電話が不正に契約されている」などと電話があった後、警察官や検察官を名のる男らから、SNSや電話で「詐欺の犯人を逮捕した」、「あなたの関与を疑っている」、「あなたが持っている資産を凍結する可能性があるので金融庁に預ける必要がある」などと言われ、犯人の指示に従い、同年2月中旬から同年3月上旬までの間、指定された口座への振込や手渡しにより、現金合計1,350万円をだまし取られた。

(2) 副業を名目とした詐欺による高額被害

本年3月、被害者（函館市居住、20歳代男性）は、SNS上の副業広告で知り合った者と別のSNSでやり取りをする中で、タスクと称した暗号資産購入名目で、同年3月7日から同月10日までの間、複数回にわたり、指定された口座や決済アプリに送金し、現金合計約120万円をだまし取られた。

○令和8年3月末における特殊詐欺の認知件数は106件（R7年3月末:120件）で前年に比べ14件減少し、被害金額は約6億2,800万円（R7年3月末:約2億3,300万円）で前年に比べ約3億9,500万円増加しました。

○特殊詐欺被害者の年齢層は、高齢者（65歳以上）の割合が約53.8%（令和7年:約61.7%、令和6年:約42.6%）となっており、3月末時点では、被害者の約半数が高齢者の方となりました。

○「2 3月中に認知した主な事件」のとおり、道内では、警察官などをかたり捜査名目で金銭をだまし取るニセ警察詐欺や副業を名目とした詐欺による被害が複数確認されています。警察官は、SNSで連絡をしたり、金銭を要求したりすることは絶対にありません。また、インターネットやSNS上で知り合った相手から副業話を持ちかけられ、被害に遭うケースが確認されていますので、このような話をされた場合は、全て詐欺を疑い、送金前に警察や家族に相談してください。